

学校アンケートより

【成果】

- 生徒が職場の方々によくしていただき、安心して取り組めた。そして、ミッションに対して、自分たちなりに考えて表現できたことで、多少なりとも現実インパクトを与えられた経験を積めた。
- 実際に働く大人を間近で見て、聞いて、体験したことで、自分が持っていたイメージや考えのギャップに気付くなど、働くことや職業への興味・関心が高まった。
- 課題を解決することを通して、その職業の特徴や社会での役割に目を向けて考えることができた。
- 事前学習で設定した課題について生徒なりに解決することができた。地元の事業所の方の支援のおかげである。
- 生徒が企業のミッションの課題から仮説を考え、発表に至るまで、探究学習の流れを意識して活動することができてよかった。発表会に向けて十分な準備をしても、当日の質疑応答で答えられない生徒もいて、修学旅行など次の発表会に向けてどのように取り組むとよいか考える貴重な時間になった。
- 地域の人々とかかわり、将来の職業や社会の中でやりがいをもって働くことに前向きになれた生徒がほとんどだった。また、課題を解決するということに取り組む中で、様々なことに疑問をもち、自ら考え、より良い解決策を打ち出す力を鍛えることができた。
- 働くことについて考えることができた。
- 佐渡の企業や働くことに、関心がもてるようになった。
- 体験を通じて、職場や地域の現状を知ることができた。
- 働くことの意義や意味を知ることができた。
- 職業に就くことの大切さや、やりがいなどを肌で感じ取ることができた貴重な体験となった。また、マナーや礼儀作法など、生徒自身の日頃の学校生活にも活かされている。
- 課題が提示されることで、職場体験に向かう姿が従来のものより主体的になっていた。また、生き方・働き方トークはスライドや多くの資料を提示し、大変な準備をしてくださっていた事業所もあり非常に有意義な時間になった。事業所の方々の真剣な姿勢が生徒にも伝わり、多くを吸収しているようだった。
- 事業所からの協力がたくさんあり、体験学習ができている。学校としてどのように協力し、たくさんの事業所がこれからも生徒を迎え入れてくれるようになるかを考えていきたい。

【課題】

- △生徒が行き先を選ぶことができない中で、課題解決に意欲的に取り組んでもらうにはそれなりの工夫が必要で、かなりの労力となる。誰が授業者でも、事業所がどこであっても生徒にとって充実した活動になるよう考えていかなければならない。
- △ミッションを解決する今までの方法の他に、生徒が考えたテーマを学習課題に設定するのもいいのではないかと思う。学習を重ねていくことで課題が変化していくのが分かる（見える）
- △発表資料を作りながらの事後学習になったので、事後学習⇒資料作成としっかり段階を踏んで単元構成できたらもっと良かった。
- △事業所によってミッションの捉え方や難易度に大きな差があり、体験だけで完結するものとそうでないものがある。